

2016



J・A・C

(第 35 号)



平成 28 年 6 月発行
日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三
編集者 吉野 聡
事務局 〒283-0166
千葉県山武郡
九十九里町西野672-2
三木雄三方
TEL 0475-76-9467
E-Mail 支部だより参照

平成 28 年度通常総会開催 5 月 14 日 (土)

誰もが参加できる支部活動を



平成 28 年度日本山岳会千葉支部通常総会が千葉市において開催された。平成 27 年度の事業報告、決算報告、28 年度事業計画、予算及び新役員人事について全員異議なく可決された。今年の総会は会員・会友会わせて 41 名参加。議案の審議、講演会終了後参加者は、市内の会友の店「美弥和」で懇親会を開催、大いに盛り上がった。

参加者 : 竹島正義、土屋満、高橋正彦、吉永英明、黒田正雄、篠崎仁、神山良雄、塩澤厚、小疇尚、坂上光恵、新村貞男、大澤雅彦、山口文嗣、鈴木美代、櫻田直克、佐藤明夫、柳下忠義、岩尾富士夫、諏訪吉春、日色健人、三木雄三、山崎完治、吉野聡、安間繁樹、上村紀子、高橋琢子、湯下正子、田代貴征、青木次郎、三田博、山田紀夫、三田芳江、香高真奈美、叶谷寿一、能美勝博、宇津木仁典、田代治子、竹園清孝、川島辰雄、塩塚生二、新井好夫 (敬称略、順不同)

会友を増やして支部活動の活性化を

総会冒頭の挨拶で三木支部長は、山の日記念事業として親子ハイキングや山岳映画会を開催すること、郡界尾根踏査事業を秋から引き続き実施していくこと。

大勢の知恵を結集して「誰もが参加できる支部活動」を合言葉に、会友を増やし10周年に向けて支部活動の活性化を目指していきたいと話した。

新入会員 6名の紹介

支部長の挨拶に先立ち会友から会員になった6名の皆さんの紹介があった。6名とも千葉支部の活動に積極的に参加しているが、今後は会員として更なる活躍が期待されている。

写真左から三田芳江さん、香高真奈美さん、叶谷寿一さん、能美勝博さん、山田紀夫さん、三田博さん



記念講演 「房総の眺望と富士」

総会に引き続き「房総の眺望と富士」と題した記念講演が「美しい房総を写す会」会長山口秀輝さんを講師に迎え行われた。山口さんはパワーポイントを使い初めてみるような美しい房総の風景や景観、そして千葉でなければ見られない富士山について詳しく話した。また、同じ

風景でも富士山が入ると風格が出てくるとして千葉からの海越しの雄大な富士山の風景をみせてくれた。終了後「千葉にもあんなにきれいなところがあるなんて知らなかった。」「山から富士山は良く見るけれど、それにしても海越しの富士山はきれいだね」と感銘の声が寄せられた。



鋸山からの富士山（撮影 山口秀輝さん）



鹿野山の菜の花（撮影 山口秀輝さん）

残雪の黒斑山と高峰山に登る 3月5日(土)～7日(月)

渡邊信一

3月5日、松戸から坂上さんの車で、外環から関越道で小諸に向った。地元のスーパー「ツルヤ」で2日分の食料&酒を調達して12時頃参加者が高峰高原ホテルに集まった。今夜から二日間の宿は日大ワンゲル部の山小屋だ。今年の山小屋は雪が少なく、道路からは簡単な雪掻きで小屋に入る事ができた。まずは薪ストーブに火を入れて暖房の準備をした。それから今回の山行のテーマは「男の料理教室」なので男性も含めて買出した食料を今晚の料理の準備に入った。3時過ぎに準備が終わり高峰高原ホテルの温泉に入りに行った。

晴れてれば風呂場から八ヶ岳が遠望できるが曇りで駄目だった。夕食は「手巻き寿司」と「シチュウ」&サラダ等と酒で美味しい会話で過ごした。

3月6日、日大ワンゲル部小屋で朝食を済ませ車で高峰高原ホテルまで行き、8時15分車坂峠から黒斑山に登りだす。2年前はパウダースノーの雪が大量にあったが今年は春の残り雪の様で少々がっかり。軽アイゼンを付けてシラビソの林の中を快適に登れた。



(トーマの頭を背後に)

トーマの頭を経て10時45分に頂上に着いた。期待していた浅間山の展望はガスの中だった。ここで女性陣の用意してくれた稲荷寿司とサンドイッチの昼食を摂った。30分後、下りは中コースをシラビソの林を下って車坂峠へ出た。



(黒斑山の山頂にて)

午後は佐久市にある旧中山道の茂田井宿を訪ねた。今でも茂田井宿には古い土蔵が並ぶ昔の中山道の面影が残っており、大澤酒造を訪ね美術館や民俗資料館を見学した。この後から三田博さんも加わり、夕方は高峰高原ホテルの温泉に浸かる。夕食は牛の焼き肉で今夜も酒や美味しい山や人生訓の会話で心が弾んだ。

3月7日、掃除・戸締りや薪の補充などして、日大ワンゲル部の山小屋を出る。9時15分、高峰高原から高峰山に向かう。今日は快晴で八ヶ岳連邦が良く見えた。赤岳は真っ白でその右に甲斐駒ヶ岳も見えた。帰りは小諸駅近くのそば屋「内藤流そば」で石臼挽手打そば(650円)を味わった。大根や厚揚げのおでん(80円)も美味だった。帰りの関越道は雨だった。松戸に着いたら雨は止んでいた。

参加者：坂上光恵(L)、川島辰雄、三田博、山崎完治、柳川しげよ、湯下正子、渡邊信一
(敬称略)

晴香園の春休み 子どもたちと宝篋山へ

3月28日(月)

鈴木美代



子供たちは春休みとあって、月曜日に設定された宝篋山であった。平日のためJACからの参加者が少なめと聞いて急遽参加した鈴木であったが、

やはり皆さん熱心でそれなりの人数になっていた。

9時30分つくば駅前発のツクバス(コミュニティバス?)に乗り小田東バス停で下車、少し歩いた小田休憩所で車組と合流し、10時30分、宝篋山に向け出発した。極楽寺コースを通り、途中立派な五輪塔によって一休み。この辺りには小さな石の五輪塔があちこちにおかれていた。

子供たちは元気がよく、出発前乗り物酔いでへばっていた子も先頭を切って歩いている。

JACのジジババは付いてゆくのが大変。

湯下さんの計画としてはコブシの大木のところで休憩のつもりだったらしいが、少し手前の沢のほとりで休憩。なのでコブシの大木は素通りして頂上直下のバイオトイレに到着。皆でトイレ見学をして、大いに盛り上がっていた。

頂上到着は12時10分頃。12時50分まで

昼食休憩。頂上は眺めも良く、古い宝篋印塔も風情がある。桜にはちと早すぎたのが残念。

12時50分出発して、下りは小田城コースである。登りの極楽寺コースよりやや



長い、傾斜が緩く歩きやすい。13時50分、城塞展望所で一休み。14時4分のバスには間に合いそうもないのでゆっくりする。切り立った崖が続きいかにも城塞。



15分ほど歩くとお地蔵さんの行列に行きあう。全部で何体あるのか、数えかけたが途中でやめた。お地蔵さんの足もとにスマイルが咲いていた。

さらに5分ばかりで小田休憩所に到着、解散。バス組は15時4分のバスまで少しゆっくりして帰った。

参加者 晴香園: 子供6名 職員2名

千葉支部: 川島辰雄、香高いづみ、鈴木美代 高橋琢子、山崎完治、湯下正子、
渡邊信一、渡邊すみ子(敬称略)

弥彦山(全国支部懇談会) 4月9日(土)～10日(日)

花鮮やかな早春の越後路を訪ねて

三木雄三

「上越国境の山は真っ白。金城山かな、坂戸山も見えるね…。麓は越後上布の特産地だ」などと車窓の景色を楽しんでいるうちに新幹線は燕三条駅に滑り込んだ。満開の桜のなか、バスで30分ほど揺られ岩室温泉へ。「第32回全国支部懇談会」の看板が出迎える。4月9日、千葉支部からは9人が参加した。

越後支部の遠藤家之進正和支部長は「鮮やかな早春の越後にようこそ。花を楽しんでいたくために弥彦山を選びました」とあいさつ。積雪地域植



弥彦山のカタクリ

物研究所長の石澤進さんが「弥彦連山の植物」、新潟清酒学校長などの経歴のある越後支部会員の平田大六さんが「山・人・酒」をテーマに講演。夕食時には新潟の酒と新潟民謡を堪能した。

10日朝、バスはどんどん高度を上げる。白っぽい桜はちょうど満開。ヤヒコザクラと言うらしい。「日本海だ」車内に歓声上がる。気温が上がりもやが発生、佐渡は見えぬ。それでも歩き出すとカタクリ、まる雪割草と呼ばれるオオミスミソウなどが目立ち始め、



弥彦山のオオミスミソウ



日本山岳会第2代会長、高頭仁兵衛記念碑のあたりはマルバマンサクの花がそろそろ見ごろの時を迎えていた。

弥彦山の山頂で記念写真。女性陣は花を求めてさらに周辺散策、男たちは「生ビールあります」の張り紙にさそわれて展望レストランに足を踏み入れた。昨日聴いたはずの酒飲みのマナー「酔わぬは礼を欠く。その酔いざまに品格の上下あり。酔って悪しきは態は、怒、長、淫なり」は何処へやら。

参加者：岩尾富士夫、坂上光恵、塩澤厚、高橋琢子、三木雄三、柳下忠義、柳川しげよ、山崎完治、湯下正子（敬称略）

花嫁街道 烏場山(からすばやま) 266 ㍎の新緑撮影

4月16日(土) 山本哲夫

和田浦駅を起点に花嫁街道登山口まで40分、駐車禁止の看板。休憩。花嫁街道は杉林から大きな樹林帯に作られた山道である。雨が少し落ちてきたが木々が遮ってくれていた。第一展望台をパスし左に曲がり第二展望台、標高202メートル。ここからは和田浦と太平洋が見える。12時9分、小休憩。10分程で経文石。少しずつ展望が良くなると烏場山のピークと第三展望台広場が見えてきた。じがい水まで20分、新緑に覆われた道。中間の駒返しを経て第三展望台で唯一咲き残っていた山桜の元で昼食休憩1時間弱。烏場山の手前で伊予ヶ岳や西方の山なみが見え、足元にスマレやリンドウに似た小

さな花がひっそりと咲いていた。14時20分烏場山山頂266メートル。木々の合間からの展望。記念写真を撮った。下りになると、巨木がしっかりと根を張っていた。皆が夢中でカメラを向けた。展望の良い所で立ち止まりながら下り、黒滝に。しばし滝見物。三脚をセットして撮影。花嫁街道入口まで戻り、時計を見ると帰りの電車まで30数分、急いで和田浦駅に。今日は時間を気にせず行動、最後は急ぎ足となった。用意してあった飲み物で帰りの電車旅を楽しんだ。

(天候 曇り一時小雨のち晴れ)

参加者: 山本哲夫(L)、川島辰雄、香高真奈美、能美勝博、三田博、三田芳江(敬称略)



ちょっと一休み



記念撮影



大木に驚き

写真は千葉支部 HP 「カテゴリ⑨県内の山 写真 山の日に向けて」に掲載。

<http://jac.or.jp/author7cac1/catt1312/>

倉戸山登山に参加して

4月23日(土)

柳川しげよ

新宿発 8時19分ホリデー快速奥多摩5号をホームで待つ。今日はお天気も良く、新緑と桜が楽しめることもあり、ハイカーでいつのまにかホームは、一杯になっていた。皆、無事乗車できたが、離れ離れの席に座り、奥多摩駅をめざす。途中、御岳駅でハイカーの多くが下車した。これで、静かに奥多摩を楽しめるかと、ほっとする。

10時5分発小菅行きのバスに乗車する。10時30分、女の湯バス停にて下車する。いきなり、登山道が始まっており、足元は切り立った崖っぷち、眼下には美しいエメラルドグリーン奥多摩湖が望める。見とれてうっかり足を滑らせると大変な事になると、気を引き締める。



倉戸山山頂

サクラの開花が早く、すでに見頃は過ぎていた。季節が進んでおり、その代わり新緑とつつじの花が美しさを、見せてくれた。

登り始めてしばらく急登が続く。先発隊のグループは、今回初参加の女性5名が占めていた。みなさん健脚で支部会員達も追いつけないほどであった。どうかこれを機会に千葉支部の新しい仲間になってほしいものだ。

目に飽きさせる暇もなく、新緑の山肌、鮮やかなトウゴクミツバツツジそしてアセビ、エイザンスミレ等々。時々ぞかせるエメラルドグリーン奥多摩湖と大満足であった。2間かけ、全員が頂上に到着。広々とした頂上で昼食となる。赤ワインで乾杯。なんと贅沢な山旅か。帰りは、熱海口より下山する。

今回の山は、道迷いもすることなく、多少の登りはあるが、楽しみながら無理することなく登れる山であった。



新緑の中を下る

本日の参加メンバーは、18名と大勢のため、2班に分けて倉戸山に向かった。倉戸山は(標高1169m)鷹ノ巣山から奥多摩湖に続く尾根上のピークで、ヤマザクラで有名な山であるが、今年は

参加者：山口文嗣(L) 宇野圭子、黒田正雄、國宗文、香高真奈美、坂上光恵、高橋琢子、高橋正彦、萩原恵、廣村恵美子、三木雄三、三浦久美、三田博、三田芳江、宮崎美智代、柳川しげよ、山崎完治、湯下正子 (敬称略)

郡界尾根踏査の報告

第8回 平成28年3月21日(土) コース：奥畑～八丁山～奥入～長狭街道

奥畑バス停より8分ほど歩き入山口へ。長狭街道の富津と鴨川の市境を示す道路看板が目印だ。前回踏査の帰りに取り付き位置は確認済みなので、10時25分、スムーズに登山を開始した。しかし、いきなり標高差100メートルを超える急斜面。木の根を掴んで這うように登るが、数日前に降った雨で滑りやすい。シュリングを数本繋いで、必死に登る。いちばんの急斜面では、スパイク付地下足袋を履いた三木さんが先行してロープを垂らしてくれた。

小ピークに出て北東方向にいったん下った後、また急斜面を登り返すと開けた台地に飛び出る。標高308.3メートルの三角点がある「八丁山」だ。時計を見ればちょうど正午、ここで昼食にする。自衛隊リーダーのある愛宕山が見えた。



八丁山の山頂

前の丘にキョンが1頭姿を現す。すぐにこちらに気が付き、声を掛けると急いで逃げて行った。特定外来生物のキョンは、勝浦にあった行川アイランドから逃げ出したのが野生化したといわれている。

八丁山からは西に方向を変えて尾根道を進む。途中から境界杭が出てきて、それを追って歩いていく

と、木の根元になぜか大きな横穴が。人が掘ったとしか思えないが、いったい何のため？



ナゾの横穴

スマホのGPSで現在位置を確認すると、いつの間にかミスコースしている。境界杭を追っているうちに騙されてしまったらしい。この辺りは赤テープも見当たらず、獣の足跡しか無い。引き返してGPSが示す尾根をどンドン下ると、ようやく舗装された道に出た。地図上では徒歩道だが軽自動車なら通れそう。郡界尾根はこの道を横切るかたちで続いている。一休みした後、再び山中へ。アップダウンを繰り返して進むが、支尾根がやたらあるため分かりづらい。到底「ヤマカン」は通用しない。スマホを見ながら進み、郡界尾根と徒歩道が交わる地点に出るが、今度は廃道のような。予定では木の根峠方面へ向かうはずだが、今日は時間切れのために奥入集落へ経て、長狭街道へ出ることにする。踏み跡のない廃道を下ると、ようやく民家の屋根が見えた。ほっとして足元を見ると、全員靴とズボンの裾はドロドロ。「これじゃ帰りのバスに乗せてもらえないね」と笑いあった。

(三田 博)

参加者：三木雄三 (L)、小澤けい子、高橋琢子、三田博、三田芳江 (敬称略)

第9回 平成28年4月2日(土)

コース：奥入～郡界尾根合流～木の根峠～236ピーク～金束 (参加者名は15ページ)

こんにちは

吉田明子

会友デビュー「郡界尾根踏査」に参加して

4月から会友に加えていただきました鴨川市在住の吉田明子(よしだあきこ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



普段は同市内にあります千葉県立内浦山県民の森に勤務しています。森林を様々な切り口で楽しんでもらいたいと、ハイキングや自然観察、クラブや野外炊事などの催し物や体験教室の担当をしています。

入会するきっかけは、以前に仕事で三木さんとお会いした時に「会友」を教えていただき、気になっていたところに再びお会いする機会を得て、渡りに船とばかりに入会する事となりました。

山というと、小さい頃、祖父に連れられて山へ行き、メジロを探したり、カエルの卵を採集したりしていたのが最初の記憶です。保育園から小学生の頃には、トウジイ(マテバシイ)のドングリで舟を作り、ニッケイの根を掘り、友人と近所の山を探検するなどしていましたが、その後は意識することなく数十年が過ぎていきました。

山(森林)と関わるようになったのは、17年

前、今の仕事に就いてからです。これまでほとんど関心なく過ごしてきましたが、県民の森との出会いが、生まれ育ったこの地の自然を改めて見直すきっかけとなり、それに気づいてからはどんどん好きになっていきました。歩くのも、花や芽吹き、紅葉など、季節の森の様子や、石造物、炭窯の跡など昔の人々の様子を感じるのも楽しみで、休日でも時々、房総の山を歩いて楽しんでます。

今回、参加した山行は「郡界尾根踏査」。歩くのは富津・鴨川なのに「う～ん、ヘルメット?」と思いつつも、実際に歩いてみて納得。

ちょっと覚悟はして行ったつもりでしたが、考えの甘さを思い知らされました。リーダーは、予め郡界尾根のルートでGPSを入力し、そのルートを忠実に歩き、巻き道は敢えて通らない事を途中で知る事になり、行く先々で「これを歩くの!？」と内心思いながら進む事に。最後は急斜面を滑り落ちるように下り、沢から上ると林道らしき道へ出ることができました。



最後の沢、降りるまでが滑って大変でした

そんなアドベンチャールートでしたが、リーダーを始め、ベテランの方々が前後にいてくれたので安心して、そしてとても楽しく、ワクワクしながらあっという間の1日となりました。

次回の郡界尾根も含め、できるだけ参加したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

「登山教室指導者養成講習会」に参加して 3月5日(土)~6日(日)

三田 博

日本山岳会の支部事業委員会が主催した「登山教室指導者養成講習会」に、3月5日、6日の2日間、参加してきました。登山教室を開催する際の指導者・リーダーを養成するためのもので、初日は長野・小諸市にある安藤百福センターで机上講習、翌日は実技講習として黒斑山に登りました。千葉支部からは私一人でしたが、広島支部8人、東京多摩支部8人など、登山教室を既に運営している支部からの参加者が多く、出席者は全部で25人でした。「登山リーダー」と呼ばれるには、経験・技術ともにまだまだ不足している私ですが、少しでもステップアップできればと思い参加させていただきました。

初日は、気象予報士でヤマテン社長の猪熊隆之さんによる「冬山の天気」と山岳ガイドの松原尚之さんによる「冬山の安全管理」と題する講義がありました。



ツェルトの張り方を学ぶ

猪熊さんからは「天気予報はあくまで山麓の天気で、複雑な地形の山頂とは違う」として天気図から天気を読む重要性を教わりました。「山頂に笠雲がかかると天気は崩れる」とか「日本海を低気圧が通過し八ヶ岳付近で等圧線が込み合う時は、中部山岳の稜線では大荒れになる」など興味深い天気の話もたくさんありました。



黒斑山から浅間山を望む

続いて、松原ガイドからは、初心者向きの山でも冬山ではひとたび荒れれば難易度が全く変わることやホワイトアウトの危険性など、自らの体験談を交えての話を聞きました。

このあと、広島支部、東京多摩支部の方から登山教室運営の実際について話を聞きました。広島支部のケースでは、地元の新聞社が主催する登山教室を請け負っているということです。しかし、ジュニアから中級までそれぞれ月一度のペースで講座があるため指導者の負担が大きいのと、スタッフ不足が悩みの種だそうです。

翌日は、松原ガイドの先導で黒斑山に登りました。例年に無く少ない雪で、楽しみにしていたスノーシュー歩きは急きょ中止になりました。それでも、アイゼンを使って黒斑山の山頂に着くと、それまで覆っていた雲が切れて目の前に浅間山の雄大な眺望が楽しめました。下りでは、松原ガイドと一緒に「ホワイトアウト・ナビゲーション」を実際にやってみたり、雪上でツェルトに入るとどのくらい温かいのかなど、普段ではなかなか体験できないことができました。

また、宿泊施設での親睦会では持ち寄った酒とつまみを囲んで他支部の方々と、それぞれの「地元の山」について話したりと、たいへん有意義な2日間でした。

(新連載) 千葉県内一等三角点探訪記 1

山口 文嗣

序文

三角点は地形図を作成するための測定の基準点として設置されたものである。一等から四等まであり、最初に一等三角点を設置し測量し、一等三角点網を形成する。その後順次二等三角点網、三等三角点網と網目を増やしていき全国に網をかぶせるようになっていく。一等三角点は平均 45km 間隔で設置され、現在日本全国に約 1000 点存在している。三角点の内でも特に一等三角点の設置場所は遠くが見通せないと測量が出来ないので、必然的に見晴らしの良い高い山の頂上に多く設置されている。そのため我々登山者には身近な存在で、いわゆる三角点マニアも登山愛好家に多くいます。最近では人工衛星測量等の進歩でその存在意義が薄れているかもしれませんが、明治以来先人が苦勞して国土に標してきた貴重な文化遺産でもあります。

一等三角点研究会編「アルピニストとハイカーがまとめた一等三角点総覧」(2009年8月、社団法人日本測量協会)によると千葉県内には 26 点の一等三角点がある。このうちで一番標高の高い場所は、千葉県最高峰の嶺岡愛宕山ではなく、鹿野山 352.39m である。嶺岡愛宕山にも三角点は設置されているが、ここは三等三角点である。県内で標高が最も低いのは全国支部懇談会の九十九里コースでも行った片貝の 3.41m である。

高い山のない千葉県でも一等三角点の設置場所は山頂が 9 点(神社との重複 2 点を含む)と一番多い。その他神社の境内 4 点(山頂との重複 2 点を含む)、畑の中 4 点、小学校の敷地、公園各 3 点などとなっている。ユニークなのは民間企業の社員寮の敷地内や古墳の真上などという場所もあります。最も千葉県らしい場所としては、ゴルフ場の敷地内というものもある。

今後数号にわたり千葉県内の一等三角点を紹介していきます。皆さんの家の意外に近くにも一等でなくとも二等や三等の三角点があるかも知れませんが、是非探してみてください。



岩屋古墳(龍角寺 105 号古墳)の真上にある龍角寺一等三角点



畑の中の虫生一等三角点

ネパール大地震復興支援映画のロケに協力

ネパール大地震を題材に日本の救助、支援とネパールの人たちとの交流を描く復興支援映画「カトマンズの約束」のロケが始まり、5月1日には千葉市若葉区にある東京情報大学で撮影があった。



ネパール映画研究の第一人者でネパール政府国家映画賞を受賞した伊藤敏朗・東京情報大学教授が監督。千葉県内で暮らすネパール人やネパール協会会員のほか、同大学生、JAC 千葉支部メンバーらもボランティアのエキストラとしてロケに協力した。同映画は日本山岳会も後援予定で収益は全額、倒壊した村や寺院の再建に充てるといふ。

同日のロケは、破壊された首都カトマンズに設営された日本援助隊の救援施設にてというワンシーン。同大学の芝生敷地内に赤十字を描いた医療用などのテントを何組も張り、負傷した観光客や登山者が手当てを受けるシーン。頭部や顔に包帯を巻き、その上から赤色や茶色の塗料で汚れなどを表現する念の

入れよう。大学周辺の建物や送電線が撮影の邪魔にならないよう午後7時ごろからリハーサルが行われ、「はい本番、よい、アクション」の合図で撮影が始まった。吉永さんも頭や腕を負傷、「テントの外で手当ての順番を待つ人」の役として参加した。

ロケはネパールの現地でも行われ、来年夏の上演を目指す。

ネパール大地震は2015年4月25日、首都カトマンズの北西77キロを震源とした地震。エベレストではベースキャンプの18人が雪崩で死亡、ランタン村がほぼ壊滅し「エベレスト史上最悪の惨事」といわれた。（三木雄三）



総会会場で熊本地震被災地に義援金

熊本地震から1か月、収まらない余震に不安を書き立てながら、1万人を超える人々が避難所暮らしを余儀なくされている。甚大な被害を被った被災地を支援するため、5月14日の支部総会会場で募金箱を用意して義援金の協力を呼びかけたところ20,000円の募金が寄せられた。この浄財を三木支部長が5月18日（水）に日本赤十字社千葉県支部に出向き村石事務局長に手渡しました。村石事務局長は「山岳会の皆様の貴重な義援金を心から感謝いたします。確実に被災地にお届けします」と語りました。



お知らせ

会員の動向

●新入会員

- | | |
|-------|------------|
| Y.Nさん | 会員番号 15957 |
| M.Yさん | 会員番号 15962 |
| K.Mさん | 会員番号 15968 |
| K.Jさん | 会員番号 15978 |
| N.Kさん | 会員番号 15989 |

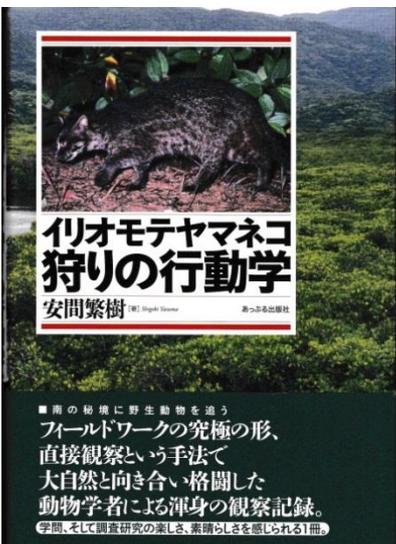
●新入会友

- S.Mさん
- Y.Aさん
- U.Kさん
- K.Aさん
- H.Mさん
- M.Kさん



イリオモテヤマネコ狩りの行動学

安間繁樹会員が刊行



イリオモテヤマネコは、西表島にのみ生息する野生のヤマネコ。1965年に発見され、国の天然記念物。“生きた化石”ともいわれる。自然保護委員の安間繁樹さんが、このヤマネコの狩りの行動を記録した「イリオモテヤマネコ 狩りの行動学」を本年4月に刊行した。

安間さんのコメント＝この本は、イリオモテヤマネコの採食行動と植生についての話です。同時に、背景にある西表島の自然と、私が試行錯誤を重ねながら、ヤマネコを直接観察するまでに至る経過を書きました。

定価：本体 2500 円+税

問合せ先 株式会社あっぷる出版社

東京都千代田区猿楽町 2-5-2

TEL: 03-3294-3780

<http://applepublishing.co.jp/>

晴香園の子どもたちと宿泊体験（公益目的事業） 7月16日（土）～17日（日）

千葉支部が取り組んでいる児童養護施設「晴香園」の子どもたちの課外活動の協力・引率で、鴨川市の県立内浦山県民の森で初めて1泊2日の宿泊体験を計画、キャンプファイヤーや野外観察を行います。園側から男性2人、女性3人の協力(宿泊)を要請されましたので、「やってみるか」と思われる方の参加をお願いします。キャビンでの宿泊になりますが、宿泊施設「せせらぎ」の利用も可能です。

「山の日」記念県民ハイキングについて 8月11日（木）

8月11日「山の日」の記念県民ハイキング「伊予ヶ岳に登る」の行程は次の通りです。

9：30(内浦山県民の森を出発)→10：40 天神社登山口で“初めの会”(山岳会・県民の森のあいさつ)→10：50(登山の注意事項など)→11：10(登山開始)→11：50(東屋で昼食)→12：20(山頂)→13：40(天神社に下山)→15：00(県民の森到着解散)。

山岳会員は10：30までに天神社に集合。

ビールパーティ 8月20日（土）

今回は、千葉中央港地区（千葉みなと）に4/15オープンした旅客船棧橋から運行する千葉港内遊覧船でのビールパーティです。

棧橋は長さ50m、幅10m。周辺にはウッドデッキや芝生が広がり、複合施設には船待合所のほかオープンカフェなどが入り、海辺を楽しめる空間を演出しているとか。夏の夕暮れ、潮風に吹かれてのビールは最高ですよ！

期日 : 8月20日（土）午後6時までに
集合 : ケーズハーバービル1階
(JR京葉線・千葉都市モノレール線「千葉みなと駅」から直進7分)
千葉市中央区中央港1-20-1 043-205-4333
出航 : 午後6時30分
会費 : 5,500円
定員 : 先着順25名
申込み : 叶谷 寿一
090-3531-1524
支部だより参照
締切 : 8月1日（月）

山岳映画会を開催 9月10日（土）

山の日を記念して山岳映画会を開催します。房総半島分水嶺や日本各地の山々を映像で紹介します。支部会員にはスタッフとして受付・案内等を別途お願いします。

会場 市川市立中央図書館2階「グリーンスタジオ」
ニッケコルトンプラザ前（総武線本八幡駅下車）

開場 午後1時（予定）

問合せ先 : 山口文嗣 支部だより参照

090-4812-8447

役員会の報告

3月報告 3月15日(火) 市川アイリンク (出席者:敬称略、五十音順)

出席者 鈴木、高橋、三木、山口、山崎、山本、吉野 7名

◎協議事項

- ・平成28年度総会について 5月14日(土)京葉銀行文化プラザ
総会資料150部印刷、4月中旬に発送
- ・10周年事業 経過を総会で報告
記念映画会の日程及び会場の確保に向けて
- ・その他

4月報告 4月19日(火) 市川アイリンク

出席者 坂上、高橋、三木、山口、山崎、山本、湯下、吉野 8名

◎協議事項

- ・28年度総会 進行計画及び役割分担
- ・10周年記念行事 記念映画会の日程等
- ・その他

千葉支部の皆さん

今年8月11日に国民の祝日として「山の日」がスタートする。全国各地で多彩な催しが計画されている。千葉支部でも「県民ハイキング」「親子ハイキング」などを準備しており、広く参加を呼びかけていく。「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」意義を踏まえて、積極的に行事への参加・協力をお願いします。



「行きたい山」のアンケート結果

総会案内の返信用はがきでお答えいただいた「行きたい山」アンケートの結果は次のとおりでした。前常念岳、和名倉山、会津朝日岳、鳥海山、妙高山、火打山、劔岳、苗場山、宮之浦岳、中央線沿線の山、富士山、雌阿寒岳、斜里岳、羅臼岳 以上

9ページ 第9回郡界尾根参加者

山口文嗣(L)、三木雄三、小澤けい子、山崎完治、鈴木美代、吉田明子、鈴木操(敬称略)

山 行 の 予 定

(6月1日以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
内浦山県民の森	7.16(土)～ 7.17(日)	三木雄三 支部だより参照	6.30(木)	公益事業「晴香園」 宿泊体験
伊予ヶ岳	8.11(木)	三木雄三 支部だより参照	8.4(木)	「山の日」記念県 民ハイキング
ビールパーティー	8.20(土)	叶谷寿一 支部だより参照	8.1(月)	先着25名
山岳映画会	9.10(土)	山口文嗣 支部だより参照		先着260名
聖岳-茶臼岳-光岳	9.16(金)～ 9.18(日)	山本哲夫 1支部だより参照	8.31	健脚者

編集後記

今年の総会で6名の新入会員が紹介された。新入会員と言っても皆さんはすでに支部山行に何度も参加したり、この支部だよりに原稿を書いていただいたりして活躍している方々だ。これからは、若い力と新しい発想をもって支部活動の更なる活性化に寄与していただくことを期待します。さらに本号では6名の新入会友を紹介することが出来た。新しく会友になられた方々も山を楽しみ仲間と交流を深め、支部ライフを堪能してください。

ところで、群馬、栃木、茨城、千葉支部の四支部で年一回集まって交流を深めている。目的が親睦と交流ゆえ酒を酌み交わし山の話やお国自慢をしてなかなか楽しいものだ。最近、この名称を「北関東四支部合同懇談会」にするという話を聞いた。名前なんかはこだわらなくとも良いと思いつつ、房総半島のど真ん中に生まれ育った私には、「千葉が北関東」と言われてもピンとこないし居心地も良くない。もっとすっきり納得のできる名称はないものだろうか。(S. Y生)

印刷

三陽メディア株式会社

